

北神地域のバス路線維持に関する提案（案）

平成 31 年 3 月

北神地域公共交通再編実施計画検討部会

目次

第 1 章 背景と目的	1
第 2 章 対象地域	2
第 3 章 対象時期	3
第 4 章 対象地域の概要	4
4.1. 対象地域の現状と課題	4
4.2. 対象地域を運行する補助路線バスの現状と課題	17
第 5 章 北神地域のバス路線維持に関する提案	20
5.1. 提案の全体像	20
5.2. 具体的な方策	24
5.2.1. バス路線再編による公共交通ネットワークの形成	24
5.2.2. バス接続拠点の整備	27
5.2.3. 乗り継ぎ円滑化の検討	30
5.2.4. 公共交通利用の意識啓発	31
5.2.5. その他の施策	32
第 6 章 神戸市による支援	34
第 7 章 事業の効果	34
第 8 章 進捗管理	34
第 9 章 おわりに	35
参考資料	36
1. 北神地域公共交通再編実施計画検討部会.....	36

第1章 背景と目的

神戸市北神地域は、主に神戸市北区の有野町、有馬町、淡河町、大沢町、道場町、長尾町、八多町の7町からなる地域であり、ニュータウンなどの住宅が広がる地域と、農地・集落・里山が広がる田園地域により構成されている。神戸市都心部までの道路網や鉄道網が整備され、北神地域は都心部のベッドタウンとして地域の開発が進められてきたが、近年では、人口減少や少子高齢化が進展し、特に田園地域においては地域の活力の低下が懸念されている。また、人口減少や少子高齢化は、地域公共交通にも影響を及ぼしており、路線バスの利用者数が年々減少し、運行本数の維持・確保とともに、地域の生活の足の確保が大きな課題となっている。

このような状況を踏まえ、平成29年3月に策定した「神戸市地域公共交通網形成計画」に示された将来像や施策の取り組み方針に基づき、北神地域公共交通再編実施計画を策定し、地域の利用実態を踏まえた「持続可能な公共交通ネットワーク」・「地域住民のモビリティ」の確保を目指して、北神地域のバス路線を維持するための方策について提案する。

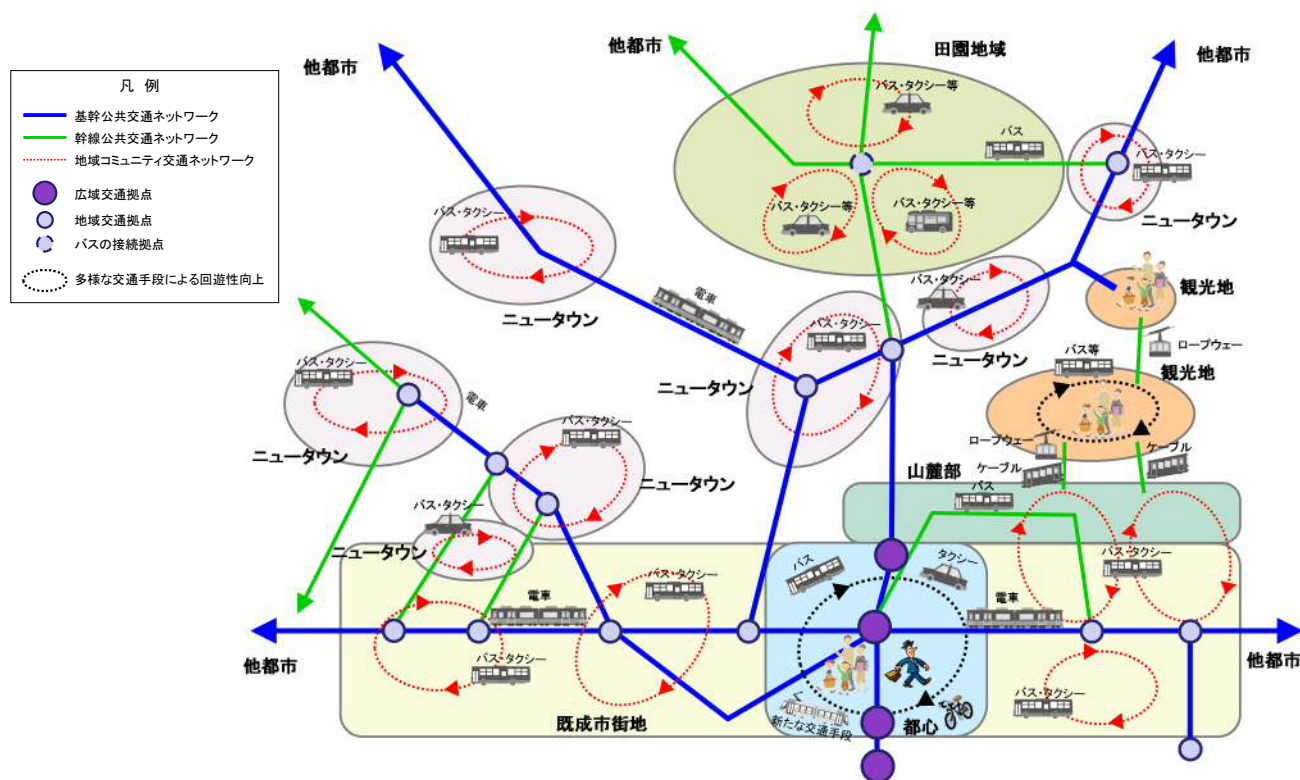


図 1-1 公共交通ネットワークの将来像

(出典) 神戸市地域公共交通網形成計画 (平成29年3月)

第2章 対象地域

対象地域は、神戸市地域公共交通網形成計画を踏まえて、神戸市北区の北神地域のうち、田園地域を中心とした地域とする。(下図参照)

<神戸市地域公共網形成計画（P17）より抜粋>

- ・北神地域では隣接市を跨る長大バス路線（主に淡河町、大沢町、長尾町、八多町の4町を通過するバス路線）において、地域住民の日常生活に必要な不可欠な移動手段を維持確保するために、国、県、市による運行補助を行っている。これらの路線バスは利用者数が年々減少し、運行本数はここ数年現状維持となっており、過去からの推移をみると減少傾向となっている。
- ・また、田園地域は住居が散在しているため、最寄りのバス停留所までのアクセスが不便な地域が存在している。



図 2-1 対象地域

(出典) 国土地理院の電子地形図（タイル）に対象地域を追記して掲載

第3章 対象時期

対象時期は、神戸市地域公共交通網形成計画の目標年次である2025年とする。

提案内容の実施にあたっては、周辺市の地域公共交通網形成計画などの交通計画との連携を図りながら実施していくものとする。

第4章 対象地域の概要

4.1. 対象地域の現状と課題

(1) 人口動態

1) 将来人口の推移

- 対象地域においては、市街化区域、市街化調整区域により、人口動態が異なる。
- 大部分が居住する市街化区域では、今後、2025年までは、人口はほぼ横ばいであるが、高齢人口は増加する見込みである。一方、市街化調整区域では、人口減少が進行し、高齢人口が増加する見込みである。

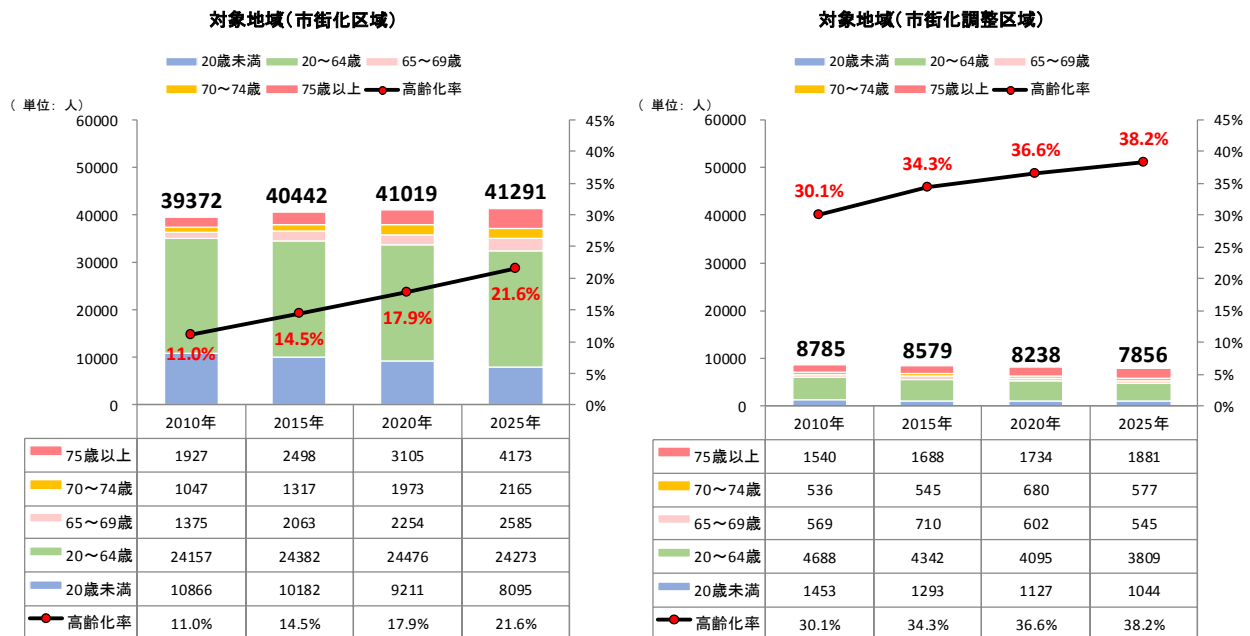


図 4-1 対象地域の将来人口の推移

※2015年以降の人口は、2010年国勢調査500mメッシュ年齢階級別人口をもとに国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）神戸市北区の各パラメータに基づいて推計。

2) 低密度に広がる人口

- 対象地域は、主に農地・集落・里山が広がる田園地域であり、図 4-2 に示すように集落が点在する大沢町・淡河町では低密度に人口が広がっている。

また、バス停徒歩圏を 300m と仮定した場合の対象地域のバスアクセス性について、以下の点の特徴として挙げられる。

- 大沢町・淡河町では、バス停徒歩圏外の地域が多く散在している。
- 長尾町・八多町・道場町の一部・有野町の一部では、市街化区域の多くがバス停徒歩圏に含まれる一方、市街化調整区域ではバス停徒歩圏外の地域が見られる。

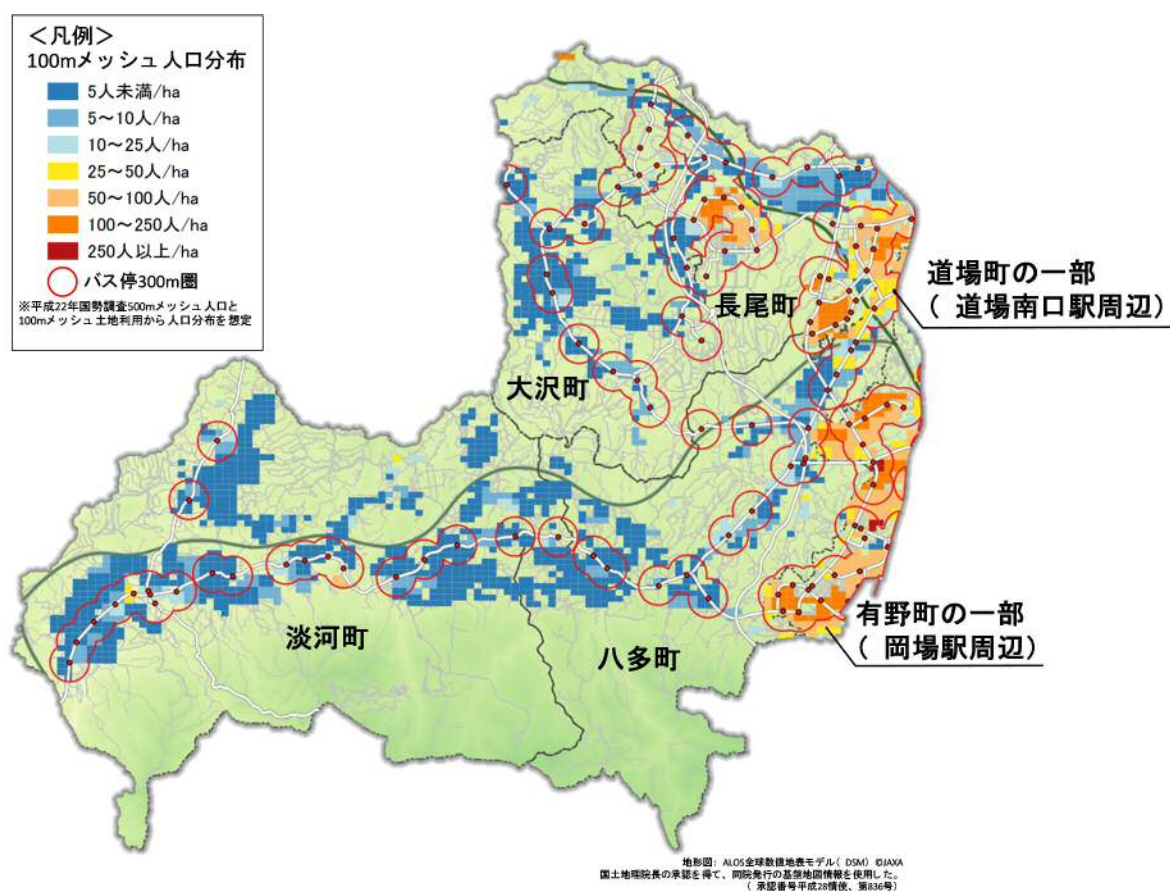


図 4-2 対象地域の人口分布 (平成 22 年)

(2) 施設立地状況

・ 対象地域内は、学校・行政施設が中心であり、鉄道沿線に医療・商業施設が立地している。



図 4-3 対象地域の主な施設立地状況

表 4-1 対象地域に立地する主な施設

町名	施設分類	施設名称	町名	施設分類	施設名称
長尾町	区 出張所／連絡所	長尾連絡所	有野町	区 出張所／連絡所	北神出張所
	商業施設	イオンモール神戸北		商業施設	Stepガーデン(藤原台店)
		神戸三田プレミアム・アウトレット		商業施設	スーパーマルハチ(藤原台店)
		イオン鹿の子台ショッピングセンター		学校	G-7モール北六甲
		G-7モール北神戸			有野中学校
ケースデンキ(北神戸鹿の子台店)	有野北中学校				
八多町	学校	長尾小学校	有野小学校		
		鹿の子台小学校	藤原台小学校		
	北神戸中学校	西山小学校			
	区 出張所／連絡所	八多連絡所	病院	済生会兵庫県病院	
淡河町	区 出張所／連絡所	淡河連絡所	大沢町	区 出張所／連絡所	大沢連絡所
		道の駅 淡河			大沢小学校
	学校	淡河小学校		学校	大沢中学校
		好徳小学校		道の駅	神戸フルーツ・フラワーパーク 大沢
	淡河中学校				

(出典) 区役所 (出張所／連絡所) : 神戸市 HP(平成 29 年 3 月)

商業施設 : 大規模小売店舗法に基づく新設届出のあった店舗面積 2000m²以上の施設

学校 : 国土数値情報 学校 (平成 25 年)

病院 : 兵庫県 HP 救急告示医療機関一覧 (平成 29 年 12 月)

(3) バス交通網

対象地域において運行するバス路線を以下に示す（表 4-2、図 4-4、図 4-5）。

表 4-2 対象地域を運行するバス路線

● 運行事業者：神姫バス(株)

系統番号	路線名	補助状況
9	渡瀬～三田駅	—
10	社～三田駅	国（加東市、三木市、神戸市、三田市）
13	三田駅～大沢～岡場駅前	県（三田市、神戸市）
15	三田駅～淡河～三木営業所	県（三田市、神戸市、三木市）
16	三田駅～北神星和台	—
17	三田駅～鹿の子台物流センター	—
18	三田駅～赤松台北～みなぎ台	—
61	岡場循環線	—
62	新三田駅～神鉄道場駅	—
63	アウトレット～関西学院大学・ゆりのき台4丁目	—
64	三田駅～上津公園前	—
65	三木営業所～淡河～岡場駅前	県（三木市、神戸市）
66	三田駅～北神星和台～岡場駅前	—
67	三田駅～イオンモール神戸北・アウトレット	—
68	岡場駅前～神鉄道場駅	—
69	岡場駅前～フルーツパーク	—
115	三田駅～医療センター	県（三田市、神戸市、三木市）
165	医療センター～岡場駅前	県（三木市、神戸市）
—	三宮～吉川庁舎前	県（三木市、神戸市）
八多町 コミュニティバス	岡場駅前・道場南口～屏風辻	神戸市

※15 系統のうち、一部の路線は補助対象外

※国；国県協調路線、県；県単独補助路線

● 運行事業者：阪急バス(株)

系統番号	路線名	補助状況
阪急 67	岡場駅～藤原台南町～岡場駅	—

● 運行事業者：淡河町地域振興推進協議会

系統番号	路線名	補助状況
淡河町 コミュニティバス	北区淡河町内	神戸市

（平成 30 年 10 月時点）



図 4-4 対象地域を運行するバス路線（広域図）

※地理院タイルの地図を基にバス路線図等を編集

(4) バス利用者の移動特性

1) 平日の移動

- 対象地域に関連する移動は、有野町内、長尾町内、八多町内、長尾町⇄三田市、長尾町⇄有野町、有野町⇄三田市の移動が比較的多い。

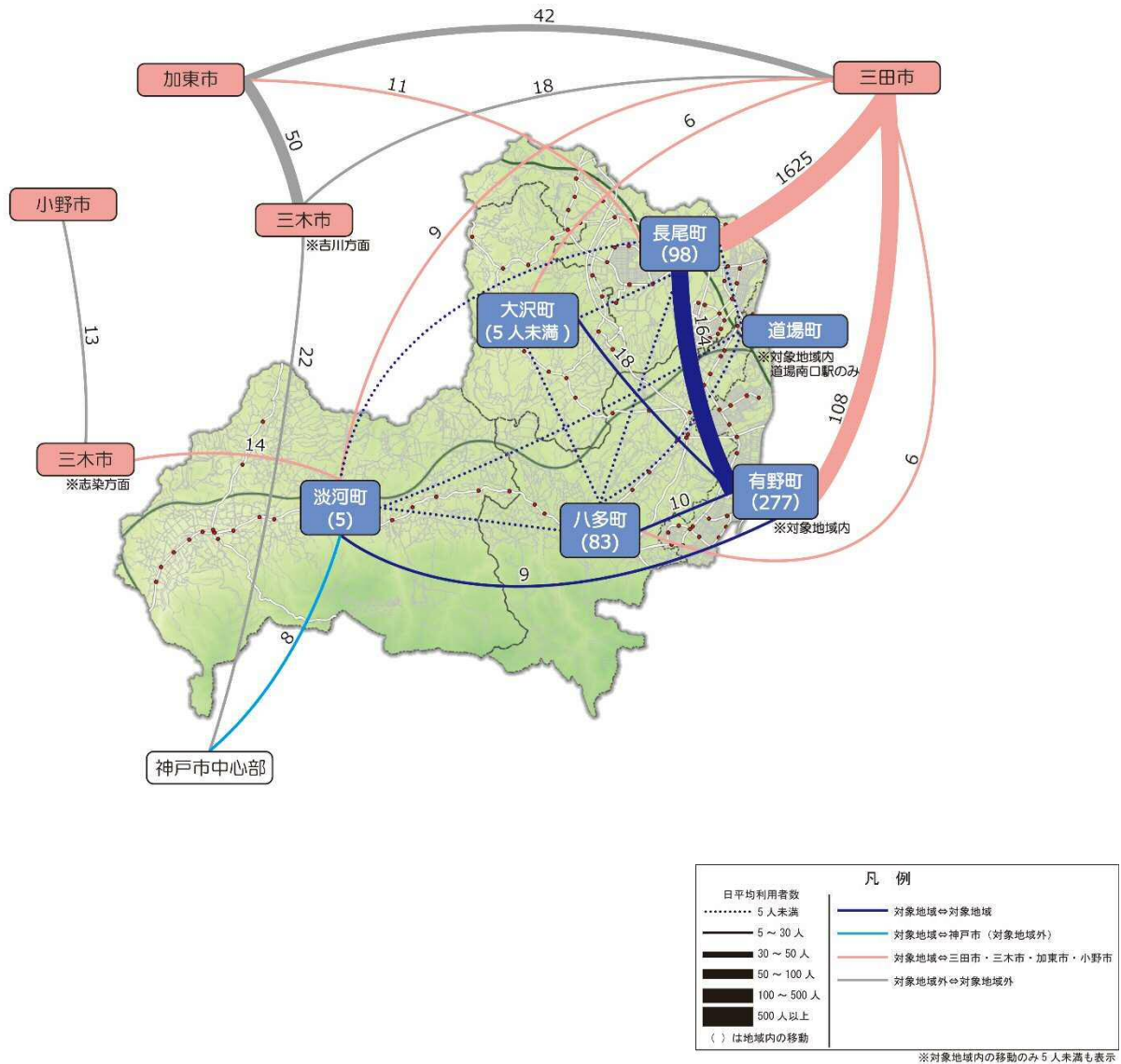


図 4-6 バス利用者の移動特性 (平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月・平日)

表 4-2 のバス路線を対象とした交通系 IC カードによる乗降実績データ (神姫バス提供) を集計 (18 系統、八多町コミュニティバスを除く)

2) 休日の移動

- 対象地域に関連する移動は、有野町内、長尾町内、長尾町⇔有野町、長尾町⇔三田市の移動が比較的多い。

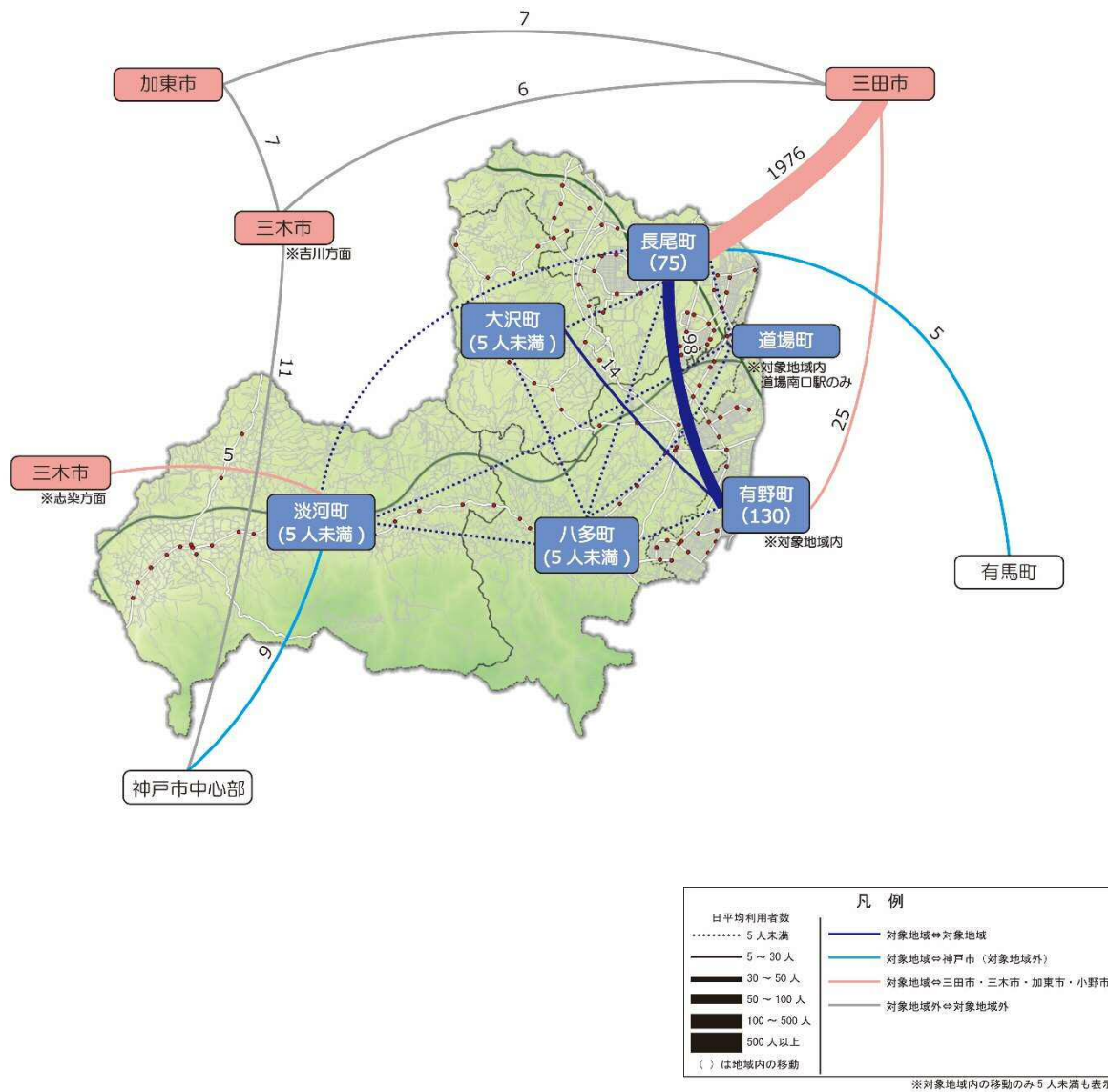
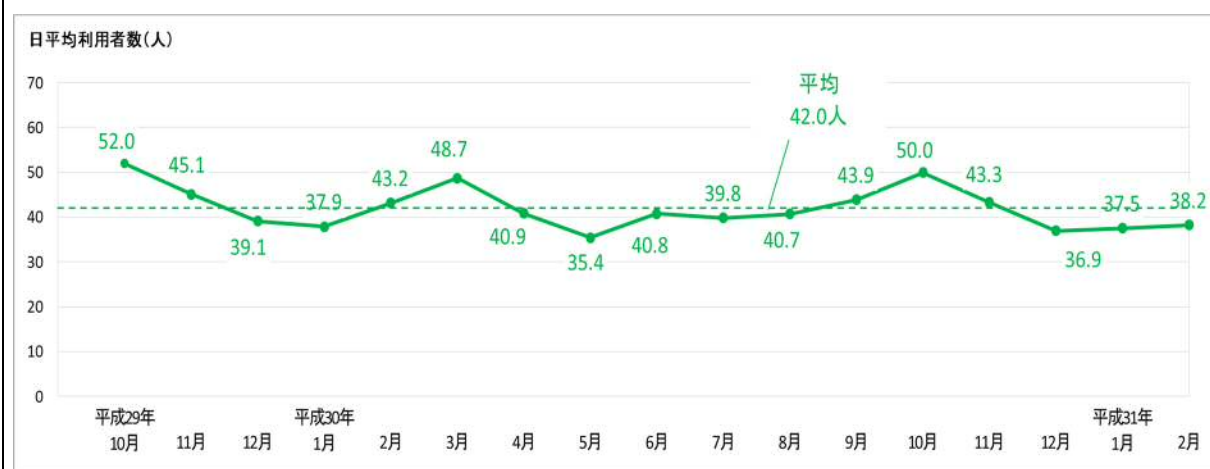


図 4-7 バス利用者の移動特性（平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月・休日）

表 4-2 のバス路線を対象とした交通系 IC カードによる乗降実績データ（神姫バス提供）を集計（18 系統、八多町コミュニティバスを除く）

【日平均利用者数】



<これまでの経緯>

平成24年～	地域で交通に関する勉強会を実施（八多町自治協議会）
平成25年10月 ～平成26年9月	第1回目の試験運行 ・路線バスを生活利便施設や駅にアクセスするようにルート変更 (利用者数：約6人/日)
平成27年10月～12月	第2回目の試験運行 ・使用車両を小型バスに変更し、地域の集会所等にアクセスする きめ細やかな運行 (利用者数：約50人/日)
平成28年9月～11月	第3回目の試験運行 ・2回目の試験運行の結果を踏まえ、ルート変更・運行便数を増便 して運行 (利用者数：約55人/日)

2) 大沢町

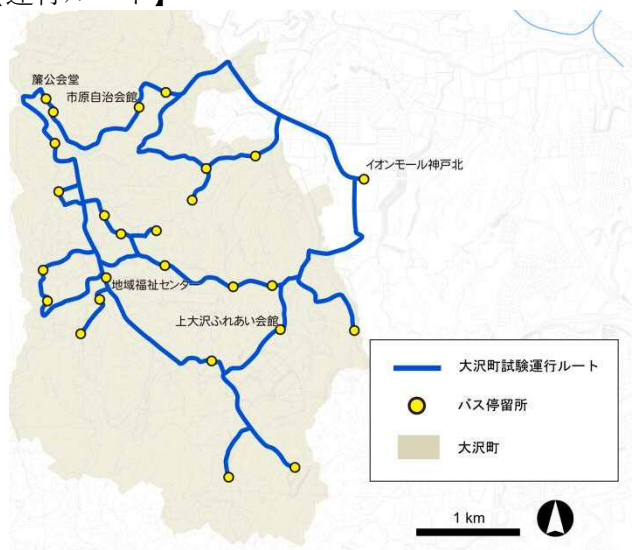
<課題>

- ・ 路線バスの便数が少ない。町内に生活利便施設が少ない。バス停までの距離が遠い地域が散在している。

<現状>

- ・ 平成 28 年 10 月～12 月に、タクシー車両を用いた大沢町コミュニティバス「やまびこ」による試験運行を実施。
- ・ 試験運行の結果等を踏まえ、地域に適した運行形態を検討していく。

【運行ルート】



<試験運行>

- 実施主体：大沢町自治連合会
- 運行事業者：日本交通㈱
- 運行系統（試験運行開始時）
定時運行：3 系統 10 便
注文運行：3 時間



大沢町コミュニティバス

<これまでの経緯>

平成 24 年～	地域で交通に関する勉強会を実施（大沢町地域事務局）
平成 28 年 10 月～12 月	第 1 回目の試験運行 ・ タクシー車両を使用した乗合による、地域内及び地域とイオンモール神戸北を結ぶ運行（利用者数：約 6 人/日）

3) 淡河町

<課題>

- ・ 路線バスの減便とバス利用者の減少が繰り返されている。バス停までの距離が遠い地域が散在している。

<現状>

- ・ 平成30年5月より、公共交通空白地有償運送として、淡河町コミュニティバス「淡河町ゾーンバス」の運行を開始。
- ・ 利用促進を図るとともに、利用状況やアンケート調査等による状況分析、予約システムの導入による運行主体の負担軽減・予約の円滑化を行い、地域の生活の足として、継続的な運行を目指す。

【運行ルート】



淡河町コミュニティバス

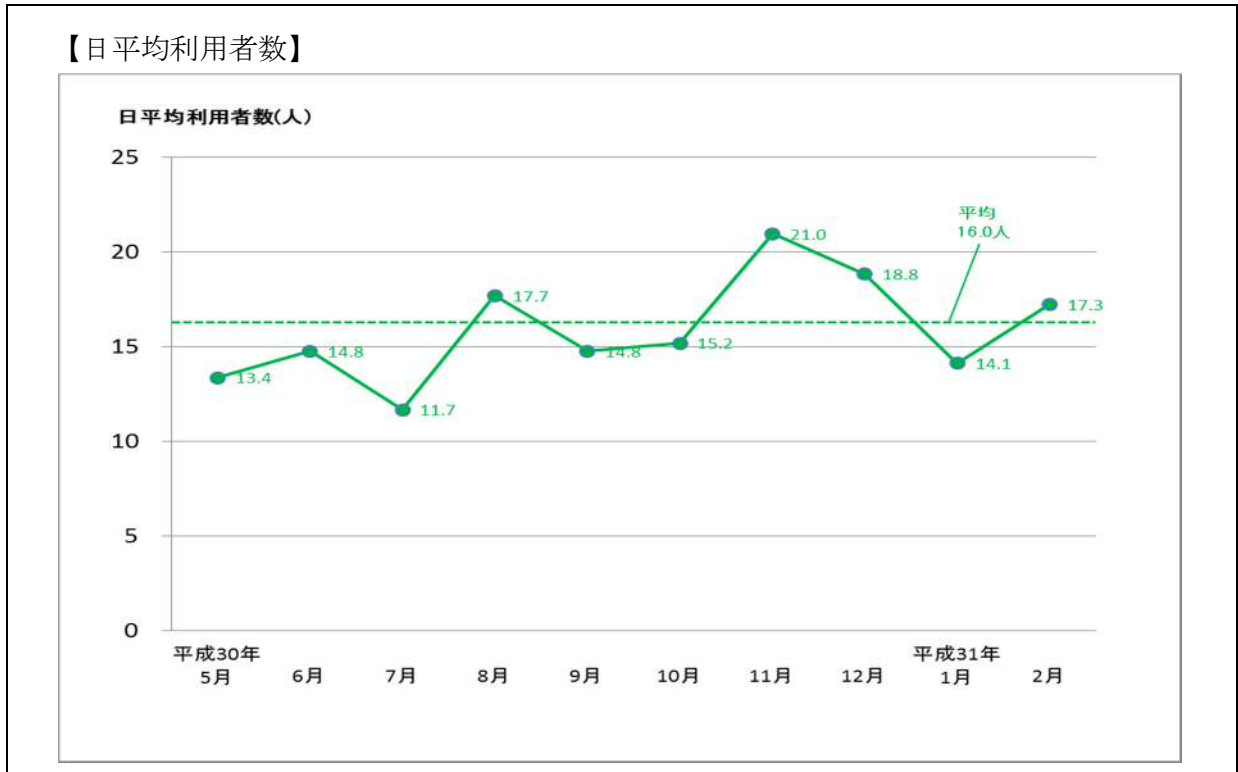
- 実施主体：淡河町地域振興推進協議会
- 運行：淡河町地域振興推進協議会
- 運行内容：診療所便、帰宅支援便など

【利用促進策】

- ・ 地域のイベントの開催
- ・ 無料お試し券の配布
- ・ 予約システムの試験導入



イベントのチラシ



<これまでの経緯>

平成 18 年～	自家用車を用いた有償運送「過疎地有償運送」の制度化を受けて地域が主体となり既存の公共交通を補完する移動手段を検討
平成 21 年 3 月 ～平成 28 年 12 月	地域の NPO 法人が町内の福祉施設の車両等を活用し、兵庫県下初の過疎地有償運送、淡河町コミュニティバス「淡河町ゾーン・バス」を運行（運行主体：NPO 法人上野丘さつき家族会） (利用者数：約 350 人/月)

※「過疎地有償運送」は、「公共交通空白地有償運送」に名称変更（道路運送法施行規則の改正（平成 27 年 3 月 31 日））

4.2. 対象地域を運行する補助路線バスの現状と課題

(1) 補助路線バスの輸送人員の推移

- 対象地域を運行する補助路線バスの輸送人員は、年々減少傾向にある。
- 特に、三木～三田・イオン線の利用者数の減少が著しい。

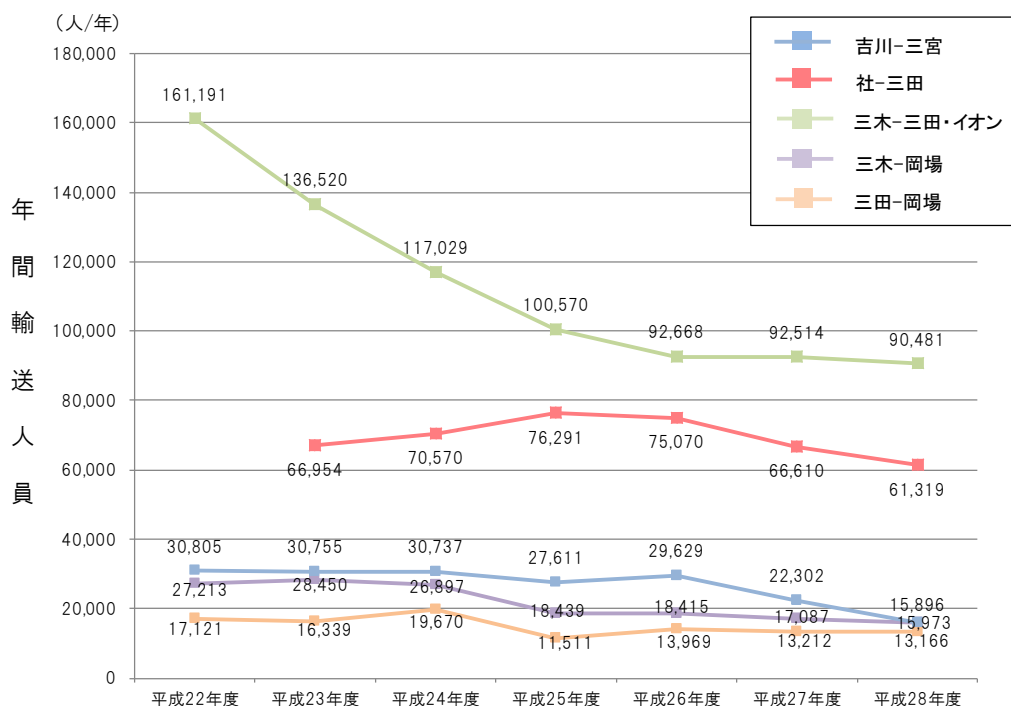


図 4-8 補助路線バスの輸送人員の推移

(2) 補助路線バスの補助額の推移

- 対象地域を運行する補助路線バスの補助額は、平成 25～平成 28 年度で約 80,000 千円～85,000 千円で推移している。

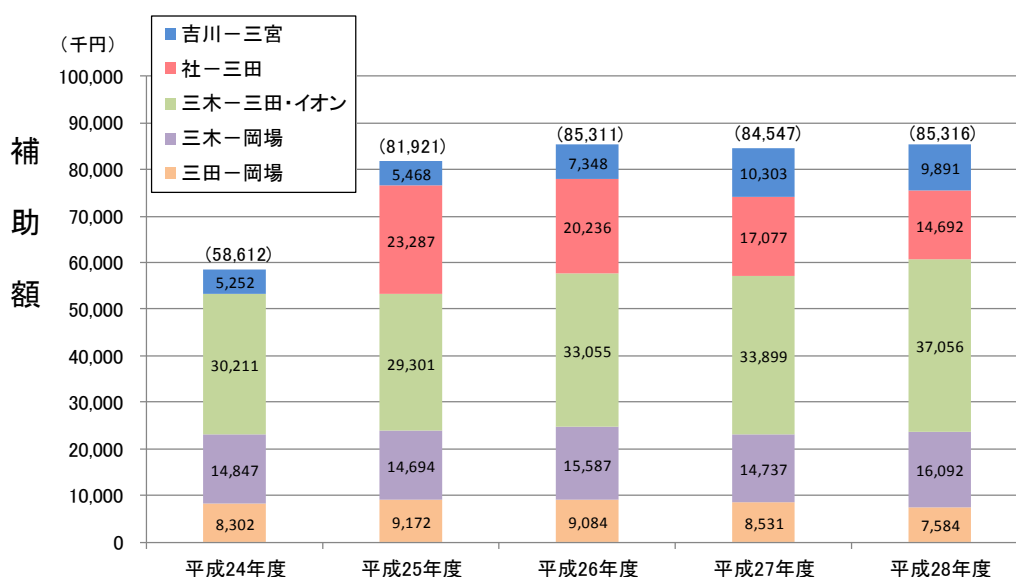


図 4-9 補助路線バスの補助額の推移

※社三田線は平成 24 年度補助対象外。国、県、周辺市を含む補助額の総額を示す。

(3) 補助路線バスの利用OD

1) 神姫バス 三木三田線 (15・115)

- ・ バス利用者の約 6 割が淡河・淡河本町より東エリア内で完結する移動。
- ・ 淡河・淡河本町を跨ぐ移動は全体の約 5～7%と少ない。

方面	
北播磨医療センター・三木営業所→三田駅	<p>N=96.1人/日</p>
<淡河・淡河本町バス停を基点とした移動の状況> ● 淡河・淡河本町から東エリア内での移動 60.6% ● 淡河・淡河本町までの西エリア内での移動 34.1% ● 淡河・淡河本町のバス停を跨る移動 5.2%	
北播磨医療センター・三木営業所←三田駅	<p>N=88.9人/日</p>
<淡河・淡河本町バス停を基点とした移動の状況> ● 淡河・淡河本町までの東エリア内での移動 66.5% ● 淡河・淡河本町から西エリア内での移動 26.8% ● 淡河・淡河本町のバス停を跨る移動 6.7%	

※交通系 IC カードによる乗降実績データ (神姫バス提供) 平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月 (平日) 日平均

2) 神姫バス 三木岡場線 (65・165)

- ・ 全体的にバス利用者は少ない。
- ・ バス利用者の約 6 割が淡河・淡河本町より西エリア内で完結する移動。
- ・ 淡河・淡河本町を跨ぐ移動は全体の約 4～6%と少ない。

方面	
北播磨医療センター・三木営業所→岡場駅前	<p>N=15.8人/日</p>
<淡河・淡河本町バス停を基点とした移動の状況> ● 淡河・淡河本町から東エリア内での移動 38.8% ● 淡河・淡河本町までの西エリア内での移動 55.1% ● 淡河・淡河本町のバス停を跨る移動 6.1%	
北播磨医療センター・三木営業所←岡場駅前	<p>N=16.6人/日</p>
<淡河・淡河本町バス停を基点とした移動の状況> ● 淡河・淡河本町までの東エリア内での移動 37.8% ● 淡河・淡河本町から西エリア内での移動 58.2% ● 淡河・淡河本町のバス停を跨る移動 4.0%	

※交通系 IC カードによる乗降実績データ (神姫バス提供) 平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月 (平日) 日平均

3) 神姫バス 三田岡場線 (13)

- ・ 全体的にバス利用者は少ない。
- ・ バス利用者の約 5 割～8 割が三田～イオン間の移動。

方面		
三田駅→岡場駅前		
<イオン・アウトレットのバス停を基点とした移動の状況>		
● 三田駅～イオン・アウトレット間のエリア内の移動	47.9%	
● イオン・アウトレット～岡場駅前間のエリア内の移動	41.3%	
● イオン・アウトレットのバス停を跨る移動	10.8%	
三田駅←岡場駅前		
<イオン・アウトレットのバス停を基点とした移動の状況>		
● イオン・アウトレット～三田駅間のエリア内の移動	75.6%	
● 岡場駅前～イオン・アウトレット間のエリア内の移動	16.9%	
● イオン・アウトレットのバス停を跨る移動	7.5%	

※交通系 IC カードによる乗降実績データ (神姫バス提供) 平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月 (平日) 日平均

4) 神姫バス 吉川三宮線

- ・ バス利用者の約 6 割～7 割が三木市～三宮間の移動。

方面		
吉川庁舎前→三宮		
<神戸市内での移動>		
● 神戸市内での移動	25.9%	
● 三木市内での移動	2.3%	
● 三木市内から神戸市内を跨る移動	71.8%	
吉川庁舎前←三宮		
<神戸市内での移動>		
● 神戸市内での移動	35.2%	
● 三木市内での移動	1.3%	
● 神戸市内から三木市内を跨る移動	63.5%	

※交通系 IC カードによる乗降実績データ (神姫バス提供) 平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月 (平日) 日平均

第5章 北神地域のバス路線維持に関する提案

5.1. 提案の全体像

北神地域のバス路線維持に向けて、以下の提案を行う。

対象地域におけるバス交通の現状と課題

- ・高齢化の進行に伴い自動車の運転が困難になる高齢者の増加が懸念され、将来にわたっての移動手段の確保が求められている。
- ・補助路線バスについては、運行本数は維持しているものの、利用者数は年々減少傾向にあり、将来にわたって維持できるか懸念される。
- ・補助路線バスは、複数市に跨る長大バス路線となっているが、利用されている区間が限定されている等の状況であり、利用実態に応じた見直しが求められている。
- ・住居が散在しており、バス停留所までのアクセスが不便な地域がある。
- ・地域の生活の足を確保するため、各地域でコミュニティバスの取り組みが進められている。

バス路線維持に向けた提案

<基本方針>

上位計画である神戸市地域公共交通網形成計画の取り組み方針に基づき、鉄道と連携し、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指す。

<提案の骨子>

- まちづくりと連携して、隣接市に跨る長大バス路線を利用実態を踏まえて見直す。
- 地域の生活の足を確保するため、地域をきめ細やかに運行するコミュニティバスなどの新たな地域コミュニティ交通の導入を図る。
- バス路線の見直しにあわせて、バスの接続機能を有する拠点整備を行い、バスの利便性向上・利用促進とともに、地域の活性化を図る。
- バスの利便性向上・利用促進を図るための乗継円滑化の検討などもあわせて実施する。

神戸市地域公共交通網形成計画に位置づけられた取り組み内容を踏まえ、以下の提案を示す。
 なお、提案の実施にあたっては、地域、事業者、行政など関係者が一体となり、バス路線の維持に向け進めていく必要がある。

表 5-1 提案概要

地域公共交通網形成計画での位置づけ	内容		運行・実施主体
バス路線再編による公共交通ネットワークの形成	「道の駅淡河」周辺を拠点とする公共交通ネットワーク	三木三田線(15・115)、三木岡場線(65・165)、岡場循環線(61)、八多町コミュニティバスを利用実態を踏まえて見直し	神姫バス(株)
		吉川三宮線の便数変更	神姫バス(株)
	「イオンモール神戸北」を拠点とする公共交通ネットワーク	大沢町コミュニティバスの運行	未定
		社三田線(10)の経路新設	神姫バス(株)
バスの接続拠点の整備	拠点機能の整備	「道の駅淡河」周辺の拠点機能の整備	神戸市 神姫バス(株) 施設の管理者
		「イオンモール神戸北」の拠点機能の整備	
乗り継ぎ円滑化の検討		ダイヤ調整	交通事業者 神戸市
		料金体系	
公共交通利用の意識啓発		公共交通機関の情報提供	交通事業者 神戸市
その他の施策	拠点周辺の活用	パークアンドバスライド駐車場	神戸市
	I C T 事業	予約システムの構築	神戸市
	観光資源との連携	観光資源を活用した交流拡大	神戸市 神姫バス(株)
	安全対策	バス停の位置や乗降スペースへの配慮	神戸市 神姫バス(株)

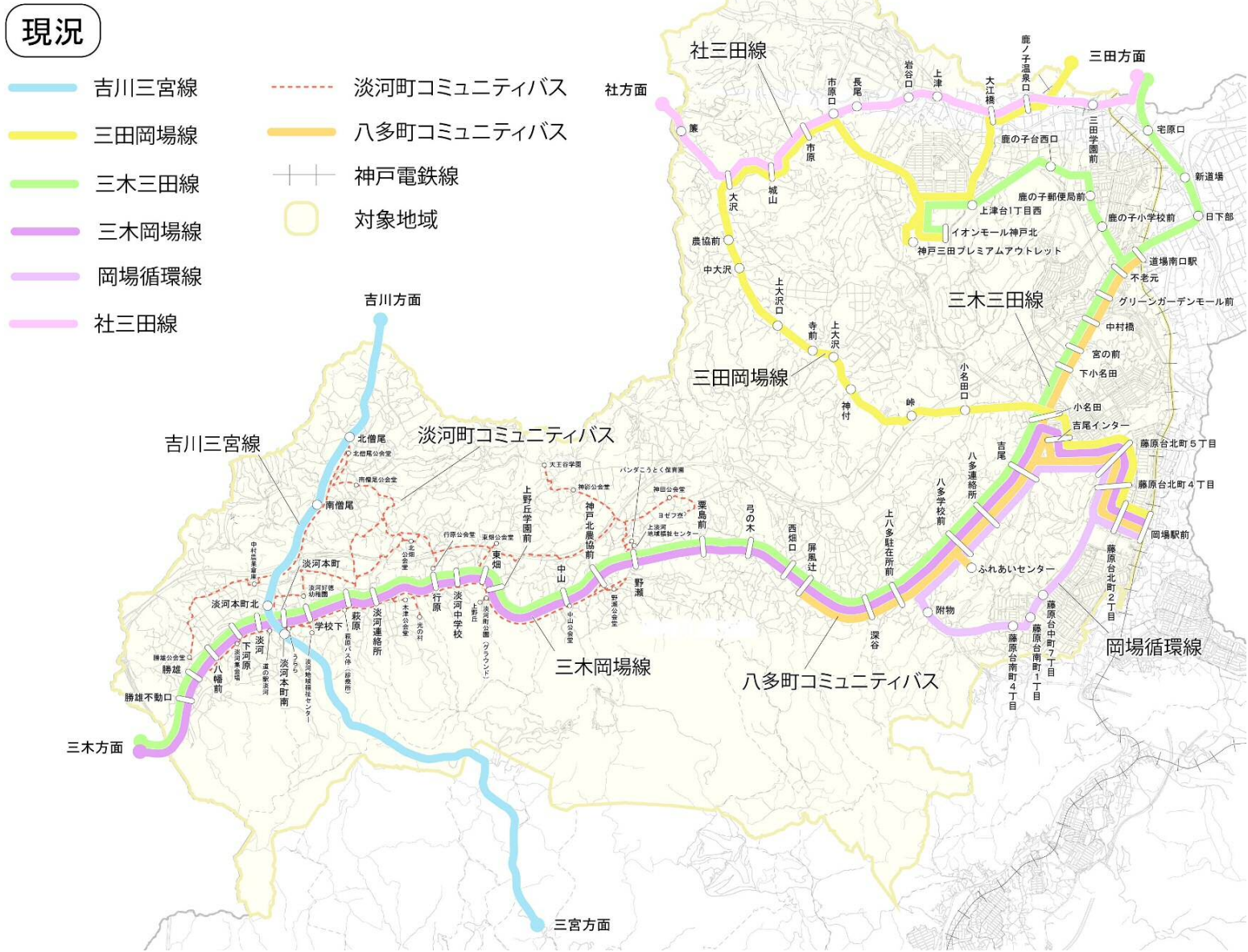


図 5-1 現況

現況

- 吉川三宮線
- 三田岡場線
- 三木三田線
- 三木岡場線
- 岡場循環線
- 社三田線
- 淡河町コミュニティバス
- 八多町コミュニティバス
- 神戸電鉄線
- 対象地域

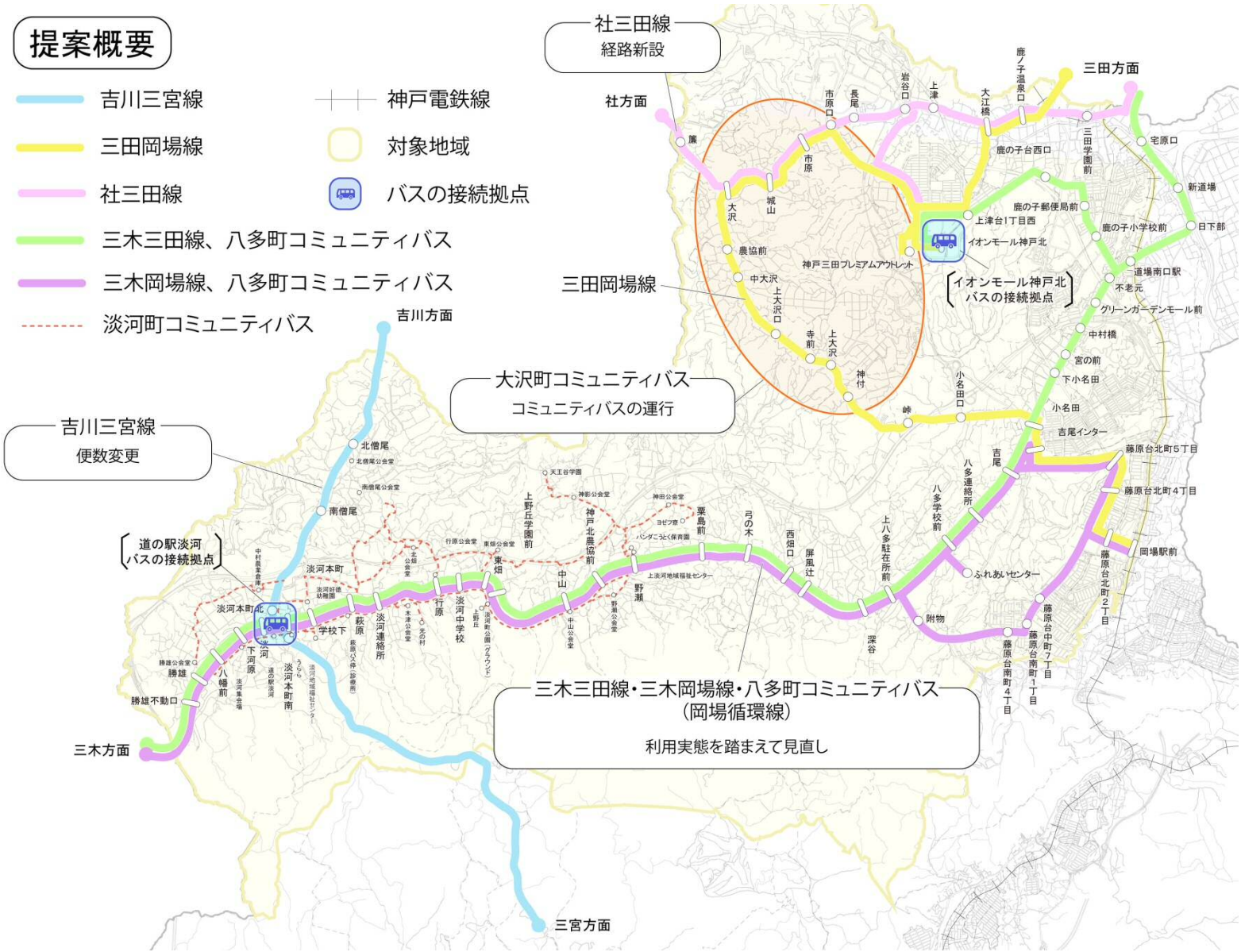


図 5-2 提案概要

5.2. 具体的な方策

5.2.1. バス路線再編による公共交通ネットワークの形成

(1) 道の駅淡河周辺を拠点とする公共交通ネットワーク

■具体策

①三木三田線（15・115）、三木岡場線（65・165）については、ICデータによる利用実態を踏まえた見直しを行うとともに、八多町コミュニティバスとの一体的な運行を行うことにより、東西幹線軸としての機能を位置づける。

- ・三木三田線や三木岡場線は、利用促進を図るため、南北幹線軸である吉川三宮線、淡河町コミュニティバスとの接続を図る。
- ・岡場循環線は、利用実態を踏まえ、他路線に統合する。
- ・八多町コミュニティバスは、利用促進を図るため、吉川三宮線との接続が可能となるよう、淡河バス停まで延伸し、路線バスとの一体的な運行を行う。

②吉川三宮線については、東西幹線軸の見直しとあわせて連携を図るため便数の変更を行い、南北幹線軸としての機能を位置づける。また、路線バスを補完する地域コミュニティ交通である淡河町コミュニティバスとの連携を図る。

③鉄道駅や路線バス、地域コミュニティ交通とのダイヤ調整を行う。

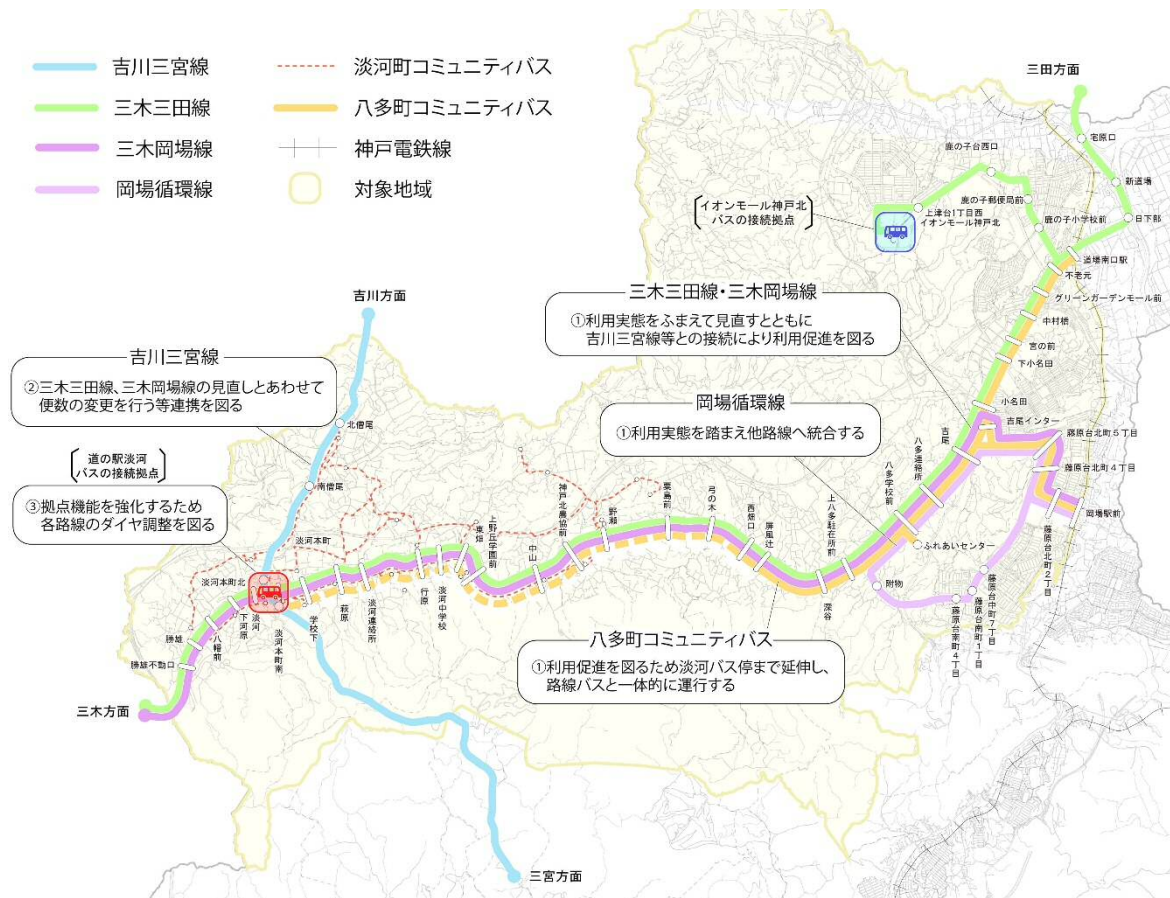
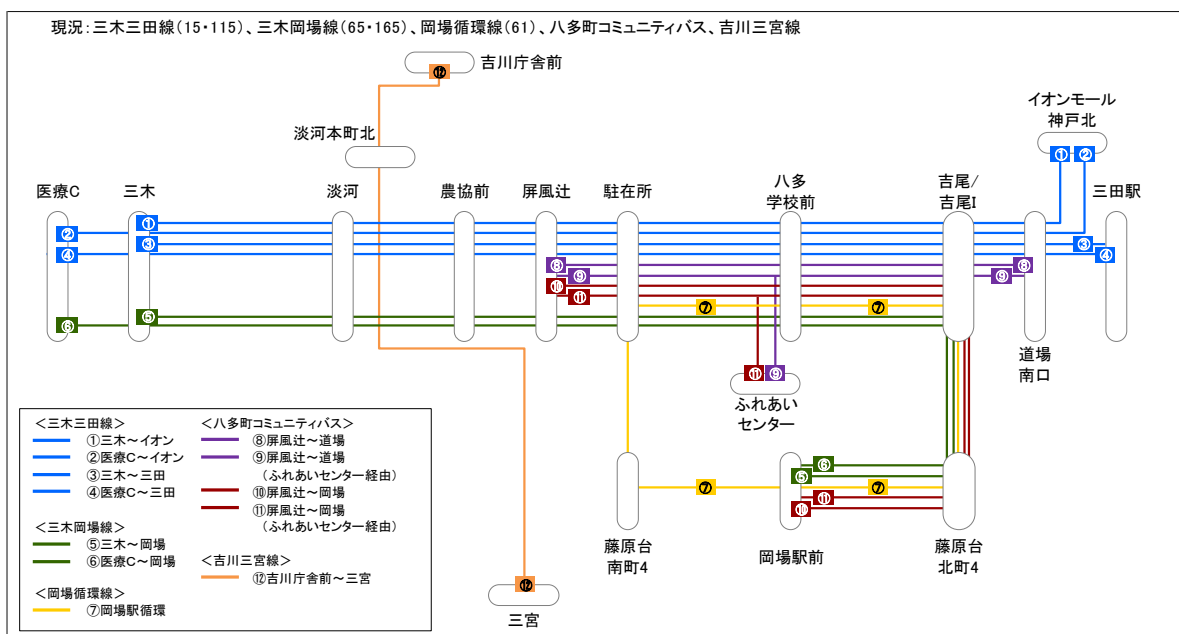


図 5-3 道の駅淡河周辺の具体策

<現在の運行状況>

		運行内容	
路線		三木三田線 (15・115) 三木岡場線 (65・165) 岡場循環線 (61) 八多町コミュニティバス	吉川三宮線
概要	主な起点	北播磨総合医療センター 三木営業所、淡河、屏風辻 岡場駅前	吉川庁舎前
	主な終点	三田駅、イオンモール神戸北 道場南口駅、岡場駅前 淡河	三宮 (神戸三宮バスターミナル)
	主な経由地	淡河、屏風辻、八多学校前 吉尾、藤原台北町、道場南口駅	淡河本町北
	キロ程 (最長)	38.1 km	38.7 km
総停留所数		74 箇所	20 箇所
車両		小型バス、中型バス、大型バス	大型バス
運行回数	平日	36 回	6 回
	土曜	16 回	6 回
	休日	16 回	6 回

運行系統図 (概略図)



第5章 北神地域のバス路線維持に関する提案

(2) イオンモール神戸北を拠点とする公共交通ネットワーク

■具体策

- ①三田岡場線については、平成30年4月に大沢町内の小学校の通学需要に対応したダイヤ変更がなされた。今後、路線バスを補完する大沢町コミュニティバスの運行を検討する。
- ②社三田線については、休日の買物・レジャーの需要に対応できるよう、イオンモール神戸北への乗り入れのための経路の新設を行う。

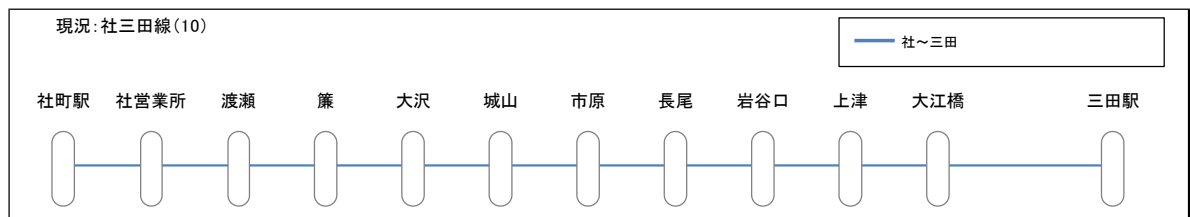


図 5-4 イオンモール神戸北周辺の具体策

<現在の運行状況>

		運行内容
路線		社三田線 (10)
概要	主な起点/主な終点	社町駅、社営業所 / 三田駅
	主な経由地	渡瀬、天神
	キロ程 (最長)	35.1 km
総停留所数		57 箇所
車両		中型バス、大型バス
運行回数	平日/土曜日/休日	12 回 / 10 回 / 10 回

運行系統図 (概略図)



5.2.2. バス接続拠点の整備

バス路線の見直しにあわせて、地域や来訪者など多くの人が利用しやすいバスの接続機能を有する拠点整備を進める。そのため、三木市・三田市のエリアを結ぶ東西幹線軸と南北幹線軸が交差する「道の駅淡河」周辺と、既に三宮、三田、岡場、三木方面等へ運行するバス停のある「イオンモール神戸北」の2箇所を新たなバス接続拠点として提案する。

<バス接続機能を有する拠点として考えられる機能>

- ・待合スペース（上屋、ベンチ等）
- ・公共交通機関の運行情報の提供
- ・パークアンドバスライド駐車場 等

(1) 道の駅淡河周辺

■具体策

- ・ 東西幹線軸である三木三田線、三木岡場線、南北幹線軸である吉川三宮線、また、淡河町コミュニティバスとの接続や道の駅淡河と一体となったまちづくりの観点から、多くの人が利用しやすいバスの接続機能を有するエリアとして、施設と協力し、道の駅内にバスのダイヤや乗り場などの情報案内板を設置するとともに、既存のバス停に上屋やベンチを設置し待合環境を向上させる。
- ・ 周辺施設と連携し、バスを利用した来訪者増加に向けて地域の魅力の発掘や発信方法を検討する。

周辺の状況

- ・ 道の駅淡河周辺エリアには4箇所のバス停があるが、上屋やベンチが設置されていないバス停がある。
- ・ 道の駅淡河には、地元物産を販売する直売所やレストラン、トイレが整備されており、また、周辺には市民が集う淡河本町公会堂や医療施設等が集積している。

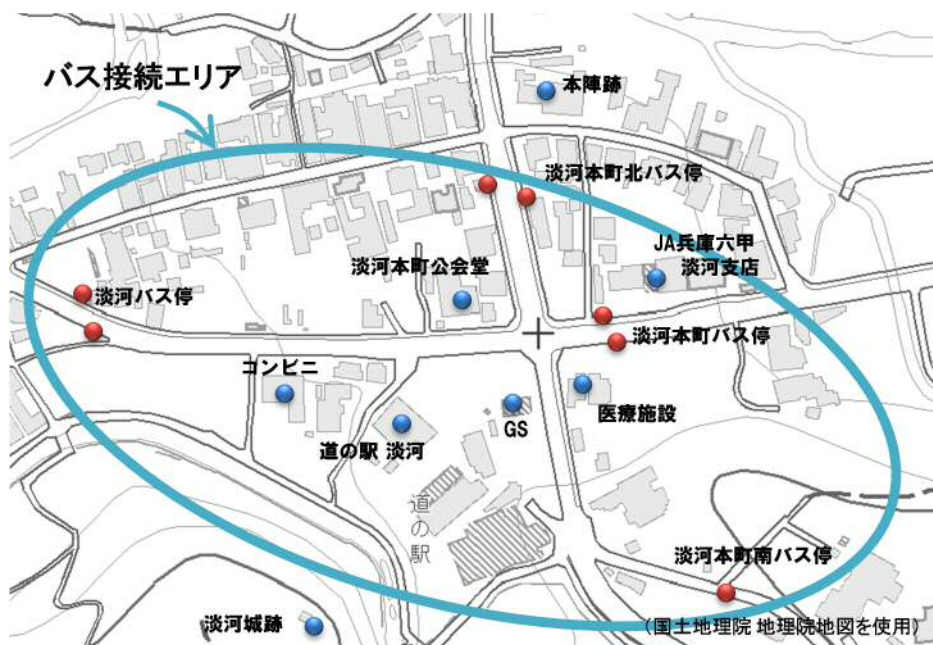


図 5-5 道の駅淡河周辺エリアのバス停

(出典) 国土地理院の電子地形図(タイル)にバス停位置等を追記して掲載

道の駅淡河の現況



(2) イオンモール神戸北周辺

■具体策

- ・ 集客性の高い大型商業施設であり、買い物やレジャーなどで訪問する多くの利用者が利用しやすいバス接続機能を有する拠点として、施設と協力し、多方面へのバスの乗り継ぎ案内など利便性の向上を図る。
- ・ 周辺施設と連携し、バスを利用した来訪者増加に向けて地域の魅力の発掘や発信方法を検討する。

周辺の状況

- ・ イオンモール内駐車場の北側にバス停が設けられており、上屋・ベンチ・バス情報案内板が整備されている。



図 5-6 イオンモール神戸北のバス停位置

イオンモール神戸北の現況



5.2.3. 乗り継ぎ円滑化の検討

■具体策

- ・ バスの接続拠点である「道の駅淡河」周辺と「イオンモール神戸北」においては、バスからバスへ乗継を行う利用者の利便性向上を目指し、①バス同士のダイヤ調整、②料金体系の検討、③乗継先の公共交通機関の情報提供の強化を進める。
- ・ ダイヤ調整については、「道の駅淡河」周辺で、東西幹線軸である三木三田線や三木岡場線、南北幹線軸である吉川三宮線、淡河町コミュニティバス等との調整を行う。また、「イオンモール神戸北」では、三田駅や岡場駅などの駅に乗り入れているバス路線と大沢町コミュニティバスとの調整を行う。
- ・ 料金体系については、路線バスとコミュニティバスとの乗継や、乗継拠点を介した多方面への乗継に対する料金施策を検討する。
- ・ 乗継が円滑となるよう、情報案内板の設置を検討するなど、乗継先の公共交通機関の情報提供を行う。(例：神戸電鉄 岡場駅)

バス同士のダイヤ調整

料金体系の検討

乗継先の公共交通機関の情報提供の強化



路線バス・コミュニティバス間の
ダイヤ調整



路線バス・コミュニティバス間や
乗継拠点を介した多方面への
乗継に対する料金施策



情報案内板の設置の検討



バスのりば案内図



のりば案内		
1番のりば 67系統 藤原台南町経由 藤原台地蔵福祉センター 方面ゆき 2番のりば 68系統 北神聖和台・神鉄道場駅 イオンモール神戸北・三田駅 ゆき 69系統 フルーツパーク・アウトレット ゆき 1-3-4系統 済生会病院前 (線路沿北側2丁目) 方面ゆき	3番のりば 65系統 淡河 三木営業所 ゆき 69系統 有馬温泉 ゆき 1系統 東有野台経由 有馬温泉 ゆき 2-4系統 東有野台 ゆき 3系統 五社線経由 有野台会館前 ゆき	4番のりば コミュニティバス 屏風辻 ゆき はたっぴバス 13系統 大沢・三田駅 ゆき 61系統 八多学校 方面ゆき

乗継先の公共交通機関の情報提供イメージ

(左：イオンモール神戸北の情報案内板、右：岡場駅のバス乗り場案内)

5.2.4. 公共交通利用の意識啓発

■具体策

- ・ 路線見直しにあわせて、アンケートなどのコミュニケーションツールを活用した意識啓発や、ワークショップなどを通じた情報提供などにより、バスの利用促進を図る。
- ・ コミュニケーションツールとしては、広報誌、地域のニュースなどを活用した公共交通利用の意識啓発を図る。
- ・ ワークショップなどを通じて地域とのかかわりを強化し、ルートやダイヤ、料金施策などについて、地域と協力して利用しやすい地域交通を検討する。
- ・ バス利用の第一歩として、バスの乗り方や交通系 IC カードの使い方、鉄道駅での乗り継ぎ方法（乗り換えダイヤ情報やお得な乗車券情報）などの広報活動を行う。
- ・ 地域によるバスを活用したイベントの開催や、町内行事などでのバスの利用等、「地域でバスに乗って支える」という取り組みを行う。
- ・ バス接続拠点の整備に向けては、地域や来訪者など多くの人が集まりたくなるような拠点づくりを目指し、地域住民とのワークショップ等を通じて、公共交通を利用するための情報提供だけでなく、利用したくなるような公共交通環境づくりを進める。

バスの利用促進



路線見直しにあわせた
アンケート調査



ワークショップの開催

例：三田市 暮らしの交通まちづくりワークショップ



第2回 暮らしの交通まちづくりワークショップ

暮らしの交通まちづくりワークショップは、市民がバス路線の見直しについて意見を述べ、バス路線の改善や新たな路線の創設などを検討する機会です。市民の声を聴き、地域と協力して利用しやすい地域交通を検討します。

三田地区・三輪地区	平成29年11月11日 ⑩ 10:00~11:30	場所：まちづくり協働センター講堂
高平地区・小野地区	平成29年11月11日 ⑩ 14:00~15:30	場所：有馬富士共生センター大会議室
広野地区・本庄地区・藍地区	平成29年11月12日 ⑩ 10:00~11:30	場所：広野市民センター大会議室(単室)
ブラワータウン地区・ウディータウン地区・カルチャータウン地区	平成29年11月12日 ⑩ 14:00~15:30	場所：ウディータウン市民センター談話室

(お問い合わせ) 三田市 地域戦略室 交通まちづくり課
三田地区 2丁 5番1号 TEL 579-5058 FAX 581-1806 bestcity.miyama.lg.jp

公共交通利用の意識啓発



地域のニュース等
広報誌の発行

例：左 区民広報誌、右 北神まちづくりニュース



北神まちづくりニュース Vol.9

市民の取り組みが地域を盛り立てています！

北神地域のバスが、市民の暮らしを支えています。バスは、地域とつながる大切な手段です。バス路線の改善や新たな路線の創設などを検討します。市民の声を聴き、地域と協力して利用しやすい地域交通を検討します。

心に残る 暮らしの交通まちづくり

市民がバス路線の見直しについて意見を述べ、バス路線の改善や新たな路線の創設などを検討する機会です。市民の声を聴き、地域と協力して利用しやすい地域交通を検討します。

心に残る 暮らしの交通まちづくり

市民がバス路線の見直しについて意見を述べ、バス路線の改善や新たな路線の創設などを検討する機会です。市民の声を聴き、地域と協力して利用しやすい地域交通を検討します。

5.2.5. その他の施策

(1) 拠点周辺の活用

■具体策

- バス接続拠点まで公共交通機関でアクセスできない方に対しても、バス利用できる環境整備として、パークアンドバスライド駐車場やサイクルアンドバスライド駐輪場を検討する。

パークアンドバスライド



例：みなぎ台（三木市）



サイクルアンドバスライド



例：神戸市の取り組み



(2) ICT事業

■具体策

- 利用者が利用しやすいよう、検索しやすい経路探索システムへの改善（例：類似するバス停名の工夫など）や、各社のバスロケーションシステムの統合を検討する。
- 淡河町や大沢町で行われる地域コミュニティ交通については、インターネット（PC、携帯電話、スマートフォン）から乗車予約可能な予約システムの構築を検討する。

地域統合バスロケーションシステムの構築

例：神戸市交通局のバスロケーションシステムの画面



予約システムのICT化



地域コミュニティ交通における
予約システムの構築

(3) 観光資源との連携

■ 具体策

- 北神地域の観光資源を活用した交流拡大として、日帰り観光可能なルート設定や企画乗車券の開発など、鉄道利用との利便性も高まるようなバスと観光振興が連携できる仕組みづくりを地域と協働して検討する。

地域の観光資源との連携

例：北区大沢町 味覚狩り



企画乗車券との連携



例：バス旅ひょうご



(4) 安全対策

■ 具体策

- ルートやダイヤの見直しに合わせ、道路管理者など関係機関と調整し、利用者の安全が図られるよう、バス停の位置や乗降スペースなどに配慮する。

第6章 神戸市による支援

○路線バスの維持・確保に対する支援

国・県・近隣市と適切な役割分担を図りつつ、公共交通ネットワークの維持・確保のための支援を行う。

＜活用を予定している補助金等＞

地域公共交通確保維持改善事業補助金（地域間幹線系統補助）

○乗継利便性向上策に対する支援

国・県・近隣市と調整を図りながら、バス接続拠点や、乗継利便性施策などに対する支援を行う。

第7章 事業の効果

項目		事業効果
「道の駅淡河」周辺を拠点とする公共交通ネットワーク	三木三田線、三木岡場線、八多町コミュニティバス等の路線の見直し	利用実態を踏まえた見直しによる効率化
	吉川三宮線の便数変更	他路線との連携による利便性向上
「イオンモール神戸北」を拠点とする公共交通ネットワーク	大沢町コミュニティバスの運行	路線バスを補完する大沢町内の交通環境の向上
	社三田線の経路新設	大型商業施設への利便性・アクセス向上

第8章 進捗管理

本提案の進捗管理は、毎年度、神戸市地域公共交通網形成計画の施策の一つとして、神戸市地域公共交通活性化協議会にて行う。

進捗管理にあたっては、提案を踏まえた施策の実施効果や、変化する社会情勢との適合性、地域の状況の変化等をみながら、真に高い効果が得られる施策を実施できるよう検証していく。

第9章 おわりに

バス交通は、鉄道を補完する公共交通として広く利用されており、地域の生活の足として欠かせない移動手段となっている。一方で、バス交通を取り巻く環境は年々厳しくなっており、特に人口が少ない地域では、利用者の減少や運転手不足により交通サービスの維持が困難になっていることに加え、高齢化の進行に伴い、より一層地域に密着した公共交通ネットワークの提供が求められている。

このような状況を背景に、本提案では、既存のバス路線の見直しだけでなく、地域が主体的に取り組む地域コミュニティ交通の導入など多様な交通手段を活用するとともに、地域やその他来訪者など多くの人が集まりたくなるような拠点の整備、利用しやすい乗継施策の実施などによる公共交通ネットワークの改善を提案している。

提案の実施にあたっては、誰もが利用しやすい公共交通を目指し、ワークショップ等による地域との対話のなかで、地域の特性を適切に把握しながら、関係する交通事業者や行政などの関係者がより一層、一体となって取り組んでいくことが必要である。さらに、まちづくりとの連携を強化し、周辺施設や地域とのかかわりを深め、多くの人が訪れてくれるような地域の魅力を発掘し、広く発信していくことも重要である。

公共交通にかかる状況は年々厳しくなっており、状況に応じた適切な政策の立案、施策の実施を求めたい。本提案が、今後、北神地域のバス路線を維持していくうえで、その一助となることを期待する。

参考資料

1. 北神地域公共交通再編実施計画検討部会

(1) 開催経緯

開催日	概要
平成 29 年 3 月 15 日	北神地域公共交通再編実施計画検討部会（準備会）
	<主な議題> ・ 神戸市地域公共交通網形成計画(案)について ・ 北神の田園地域の現状について ・ 再編実施計画の進め方について
平成 29 年 6 月 5 日	第 1 回北神地域公共交通再編実施計画検討部会
	<主な議題> ・ 北神地域の長大路線の現状について ・ IC データによる乗降調査結果について ・ 再編の考え方について
平成 30 年 2 月 9 日	第 2 回北神地域公共交通再編実施計画検討部会
	<主な議題> ・ 再編案（骨子）について
平成 30 年 3 月 23 日	第 3 回北神地域公共交通再編実施計画検討部会
	<主な議題> ・ 北神地域公共交通再編実施計画（素案）について
平成 30 年 9 月 28 日	第 4 回北神地域公共交通再編実施計画検討部会
	<主な議題> ・ （仮称）北神地域のバス路線維持に関する提案について
平成 30 年 12 月 26 日	第 5 回北神地域公共交通再編実施計画検討部会
	<主な議題> ・ 北神地域のバス路線維持に関する提案のたたき案について
平成 31 年 3 月 18 日	第 6 回北神地域公共交通再編実施計画検討部会
	<主な議題> ・ 北神地域のバス路線維持に関する提案（案）について

(2) 検討経緯

- ・北神地域公共交通再編実施計画検討部会（以下「検討部会」という。）は、北神地域公共交通再編実施計画（以下「再編実施計画」という。）の素案の検討を行うため、平成 29 年 3 月に準備会を立ち上げ、平成 29～30 年度の 2 年間で計 6 回の検討部会を開催した。
- ・検討部会では、地域の現状と課題のほか、バスの利用状況や、地域が取り組む地域コミュニティ交通の実態など地域の実情を整理したうえで、平成 30 年 3 月に北神地域のバス路線再編の具体的な内容を盛り込んだ「北神地域公共交通再編実施計画の素案」をとりまとめた。
- ・一方で、北神地域のバス路線の利用者の減少は続き、平成 30 年度に行われたバス事業者による国庫補助申請において、吉川三宮線が国庫補助の輸送量要件（計画平均乗車密度×計画運行回数）を満足せず、国庫補助の対象外となった。
- ・北神地域のバス路線再編は、神戸市を南北に運行する吉川三宮線を幹線とし、それを補完（フィーダー路線）する淡河岡場線（八多町コミュニティバスの淡河延伸）を設定することにより、利用者の底上げと、再編実施計画策定による補助の特例を活用した淡河岡場線への国庫補助の活用を想定していたが、吉川三宮線が国庫補助対象外となったことにより、淡河岡場線が国庫補助路線を補完する路線としての国庫補助の活用は不可能となった。
- ・このため、再編実施計画の策定は一旦見送ることとなったが、北神地域のバス路線の実情は依然として厳しいことから、将来的に再編実施計画を策定し、地域の利用実態を踏まえた持続可能な公共交通ネットワークを確保することを目指して、平成 30 年 3 月にとりまとめた「再編実施計画の素案」を「北神地域のバス路線維持に関する提案」としてとりまとめた。

(3) 構成員名簿（平成 31 年 3 月時点）

所属・役職	氏名
委員	
兵庫県立大学 経済学部 教授	兒山 真也
兵庫県立福祉のまちづくり研究所 主任研究員	北川 博巳
兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課 副課長	正垣 あおい
三木市 都市整備部 交通政策課長	田中 栄一
三田市 地域戦略室 交通まちづくり課長	長澤 忠宏
神戸市 住宅都市局 計画部 公共交通課長	竹本 真也
神戸電鉄株式会社 経営企画部長 兼 鉄道事業本部長付部長	松本 修治
神姫バス株式会社 バス事業部 計画課長	前田 啓介
阪急バス株式会社 自動車事業部 副部長	野澤 俊博
オブザーバー	
国土交通省 近畿運輸局 交通政策部 交通企画課長	原 辰幸
国土交通省 神戸運輸監理部 兵庫陸運部 企画調整官	吉本 道明
神鉄タクシー株式会社 取締役社長	田村 幸久